

3章 セミナー実施報告

3章 セミナー実施報告

3-1 バレエ団運営スタッフ向け「ファンドレイジングセミナー」

● 背景・概要

現在、日本の多くのバレエ団は、運営面に資金的余裕を持たず、ファンドレイジングや広告・マーケティング、新たな作品づくり等に十分な投資をできないまま、少ない運営スタッフで事業運営を行っており、観客の拡大やダンサーの待遇改善が困難な状況に陥っている。

この状況を打開するために、バレエ団運営スタッフの参考となる海外の事例調査を進めてきたが、運営体制に人的余裕がない状況で、海外事例から得られた多くの知見をなかなか活かすことができている団体が多い現状がある。

そこで、基本に立ち返り、ファンドレイジングの実践に必要な基本的知識や、各団体における現状のビジョンや発信メッセージを確認し、今後の運営方針に役立てるための実践的な機会として、国内でのファンドレイジングセミナーを開催した。

研修内容は、日本における寄付文化の醸成や、ファンドレイザーの育成に向けた研修、ファンドレイジングに関するノウハウ・知見の共有に向けたネットワークの構築等に取り組んでいる日本ファンドレイジング協会に企画を依頼した。一般論にとどまらず、現状のバレエ団運営実態に即した研修内容とするため、講師には、舞踊関係の組織における勤務経験があり、日本バレエ界の現状への理解も深い、日本アーツカウンシルの今野氏をお招きし、参考となる芸術団体やソーシャルセクターの事例紹介を含めた説明を依頼した。

なお、「ファンドレイジング」という言葉は、民間非営利団体が活動のための資金を個人・法人・政府などから集める行為の総称であり、様々な範囲の定義で使用されているが、今回のセミナーでは、各運営スタッフが、支援性資金に限らない全体財源獲得の視点を持つことが重要であると考え、寄付、会費、助成金・補助金、事業収入等を含む、最広義な範囲を対象とした。



● 実施概要

セミナー名：「イチから向き合うファンドレイジング」

日 時：平成30年12月19日（水）午後3時～午後5時

場 所：芸能花伝舎 A棟1階 A2会議室（東京都新宿区西新宿6丁目12番30号）

研 修 企 画：特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

講 師：今野 真理子氏

<講師略歴>

日本ファンドレイジング協会 准認定ファンドレイザー／アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）企画室企画助成課 シニア・プログラム・オフィサー。東京芸術大学大学院美術研究科修了後、英国ウォーリック大学大学院欧州の文化政策と運営学ディプロマ修了。ダンス・カンパニー（勅使川原三郎+KARAS）での制作アシスタントを経て、国際文化交流機関、国際舞台芸術祭、国際美術展、公共劇場等にて文化事業の企画制作運営や助成プログラム運営に関わる。2014年4月より現職で、主に助成プログラムや人材育成事業の運営、調査、企画立案を担当。

● セミナー内容

- ・ファンドレイジングの定義と市場動向
- ・ファンドレイジングの「7つのステップ」の解説および事例紹介
 - (1) 組織の潜在力の棚卸
 - (2) 既存寄付者潜在寄付者の分析
 - (3) 理事・ボランティアの巻き込み
 - (4) コミュニケーション方法や内容の選択
 - (5) ファンドレイジング計画の作成
 - (6) ファンドレイジングの実施
 - (7) 感謝・報告・評価
- ・グループワークによる演習・意見交換
 - ①「ACTIONフレームワーク」を用いた共感メッセージの作成
(Attention / Change / Trust / Imagination / Only one / Network)
 - ②「7つのステップ」の実施状況および、今後の取り組みに向けた意見交換

<参加者>

日本バレエ団連盟会員団体である下記の5団体より、計8名の運営スタッフが参加した。

- ・井上バレエ団 : 2名
- ・スターダンサーズ・バレエ団 : 1名
- ・東京シティ・バレエ団 : 1名
- ・東京バレエ団 : 1名
- ・牧阿佐美バレエ団 : 3名

● 参加者の声 ～抜粋～

- 自らの団体が発信しているビジョンやメッセージを見直すよいきっかけとなった。
- お客さまや支援者の視点に立って、共感力の高いメッセージを考えることの重要性を改めて強く感じた。
- 参加した他団体のファンレイジングへの取り組み状況に影響を受け、もっと自団体でも取り組みを進めなければと思った。
- どのようなビジョンやミッションを打ち出していくにしても、ホームページ上における寄付の受け入れ体制は整えておいた方がよいと思った。(ホームページ上のトップページからわかりやすいところに寄付の窓口をつくっておく、WEB上のカード決済を可能にしておく、少額からの寄付を可能にする等)
- 支援の必要性を感じていただくために、バレエダンサーの収入の低さを説明する必要があるが、魅力的なバレエダンサーのイメージを壊したくないため、大々的には訴求することができず、難しさを感じている。
- オーケストラを中心に企業向けの寄付や支援の取り付けが進む中で、バレエは遅れているが、単純に歴史や経験の違いだけではなく、運営スタッフの意識の違いも大きいのではないかと思う。実演家と企業との橋渡し役ができるのは、事務局のなせる業であることを肝に銘じなければと思った。
- ひとりで何役もこなさなければいけない状況で、ファンレイジングに労力をかけても得られる成果が少なく、頭を悩ませている。日々のルーティン業務を見直し、様々な方策から効果的なアプローチ方法を模索し、寄付活動を進化させる必要性を痛感した。
- バレエ団の収益構造の改善や財務体制の強化による運営基盤の再構築が必須だと実感した。今後のセミナー等で、財務体系、収益構造、キャッシュフロー等の基本構造から、健全な組織運営の手法まで、組織の体質強化に向けたアドバイスが得られる機会があるとよい。
- 運営スタッフの人数が限られている状況で、プロボノの活用には可能性を感じる一方で、不安な点も多く、二の足を踏んでしまう。実際にプロボノを活用している企業からのアドバイスが得られる機会があるとよい。
- 企業からの支援拡大に向けた取り組みに難しさを感じている。先進的な企業や組織から、CSR推進企業との意思疎通に向けたアドバイスが得られる機会があるとよい。
- ファンレイジングにかかわるNPOや企業のネットワーク、情報交換の機会があることを、これまであまり意識してこなかった。さまざまなネットワークを活かして、新しい情報にアンテナをはり、新たな戦略立案や寄付制度の設計を進めていきたい。

3-2 バレエダンサー向け 「基礎からはじめる確定申告セミナー」

● 背景・概要

日本バレエ界には、学校卒業後すぐにバレエ団に所属し、一般社会人として社会のルールに関する基本的知識を習得する機会のないまま過ごしているダンサーが多数存在している。

しかしながら、バレエダンサーの社会的向上を目指す上でも、副業における活動や引退後の人生を考える上でも、ダンサーとしての立場に甘んじることなく、一般社会常識を備えた社会人として、人々と信頼関係を築きながら活躍できる人材を育成する必要がある。

一般社会常識の中でも、バレエダンサーの確定申告の理解度および申告状況については、各バレエ団の運営スタッフが以前から問題意識を感じてきた。

そこで、はじめて確定申告をするダンサー、毎年の確定申告で疑問を持っていたダンサー、ダンサーから質問を受ける機会の多い運営スタッフを対象に、確定申告について、基礎からわかりやすく解説するセミナーを開催した。

参加者へのアンケートでは、バレエ団からの収入が1割以下と答えた回答者が約半数、3割以下と答えた回答者は全体の約7割を占めた。また、回答者全員が副業をしており、ダンサーが副業をしなくとも生計が立てられるよう、環境整備を求める声も寄せられた。



● 実施概要

- ・セミナー名：「基礎からはじめる確定申告セミナー」
- ・日 時：2019年2月14日（木）15～17時
- ・場 所：芸能花伝舎 A棟1階 A2会議室（新宿区西新宿6-12-30）
- ・講 師：星田税務会計事務所 星田 直太 氏（税理士）

<参加者>

日本バレエ団連盟の会員団体である下記の4団体より、計20名が参加した。

- ・井上バレエ団：ダンサー8名（女性）
- ・スターダンサーズ・バレエ団：ダンサー5名（女性3名、男性2名）
- ・東京シティ・バレエ団：ダンサー6名（女性3名、男性3名）
- ・東京バレエ団：運営スタッフ1名

<セミナー内容>

- ・個人にかかわる税金の種類（所得税・住民税・事業税・消費税）
- ・確定申告とは？（確定申告の基礎知識）
- ・本業と副業（事業所得と雑所得、事業所得の場合の届出）
- ・青色申告のメリット
- ・「収入」「経費」の考え方
- ・所得税計算のしくみ（医療費控除、ふるさと納税等を含む）
- ・確定申告書の記載例 等

● 参加者アンケート結果（全7項目）

アンケート回答者数：回答者17名／参加者20名

Q1. セミナーの満足度について、あてはまるものに○をつけてください。（5段階評価）

- a. 大変参考になった／ b. まあまあ参考になった／ c. どちらでもない／
d. あまり参考にならなかった／ e. 参考にならなかった

A1. 大変参考になった：8名

まあまあ参考になった：8名

無回答：1名

Q2. 今回のセミナーへのご参加を決めた理由について、お聞かせください。(自由記入)

A2.

- ・ 確定申告をしたことがなく、基礎を教えてもらいたかったから。(3件)
- ・ 確定申告のことが全く分からず、今まで申告できていなかったから。(2件)
- ・ いつも確定申告をする際にわからないことがあったが、なんとなく申告していたから。(3件)
- ・ 家庭をもってしっかりしたいと思った。
- ・ 今まで父親に任せていたが、一人暮らしをきっかけに自分で申告しようと思ったため。
- ・ 今まではアルバイト先で年末調整をしていた。昨年頃からバレエ団の収入が増え、年末調整より確定申告を勧められたが、確定申告について何も知識がなかったため。
- ・ バレエ団からセミナーの案内があったから。(3件)
- ・ ダンサーに対してのセミナーなどは受けた事がなかったため。
- ・ 友人からの誘い。

Q3. 今年の確定申告は、何回目の申告になりますか？

A3. 図1の通り、はじめての確定申告を行う人が、回答者の約半数を占めた。

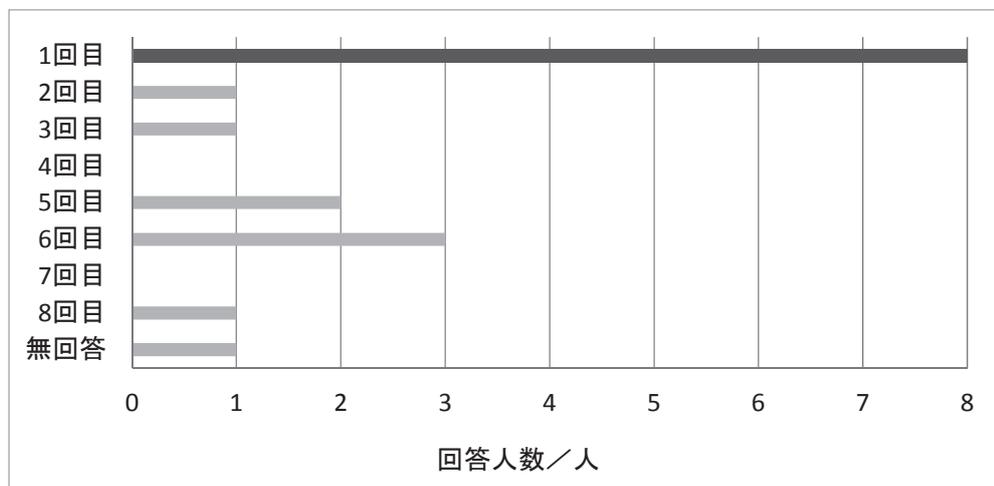


図1. 確定申告の実施回数

Q4. ご自身の収入の中で、バレエ団からの収入は何割程度ですか？

A4. 図2の通り、バレエ団からの収入は全体収入の1割以下であると回答した人が、回答者の約半数を占めた。また、3割以下と回答した人は、全体の約7割であった。

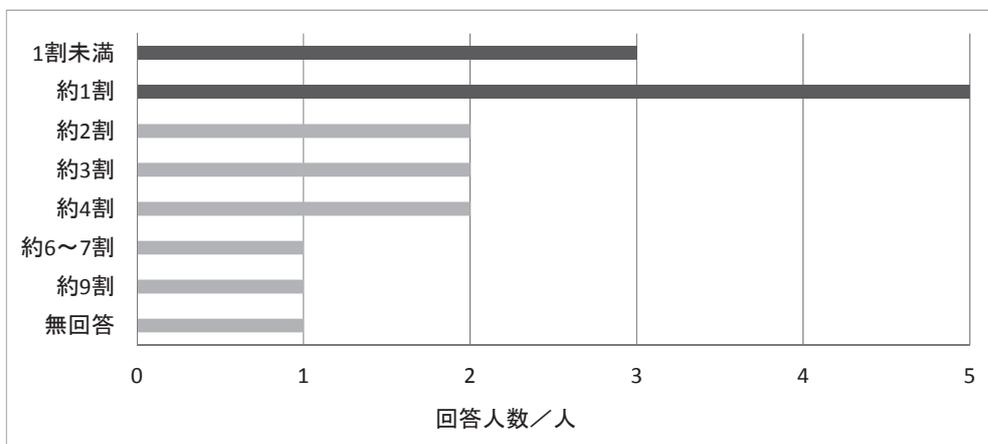


図2. 全収入に占める、バレエ団からの収入の割合

Q5. バレエ団以外の副業について、あてはまるものに✓をつけてください。

- 教室等でのバレエ指導
- 教室等でのバレエ以外の指導（ヨガ・ピラティス等）
- 外部団体の公演・発表会等へのゲスト出演
- その他アルバイト等（自由記入： ）
- 副業はしていない

A5. 回答者全員が副業をしており、ほとんどのダンサーはバレエ指導を行っていた。また、回答者の約半数は、バレエ指導とゲスト出演やその他のアルバイトをかけもちしていた。その他アルバイトとしては、コールセンター業務、一般企業での事務職の記載があった。

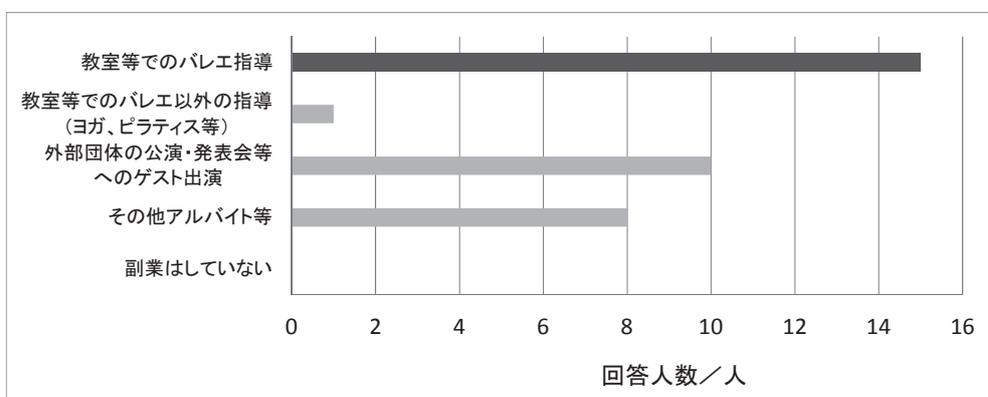


図3. 副業の状況

Q6. 今回のセミナーで参考になった点についてお聞かせください。(自由記入)

A6.

- 確定申告のしくみや基礎に関すること (5件)
- 経費に関すること (考え方、経費にしてよいものの判断等) (5件)
- 控除に関すること (所得税控除、医療費控除等) (3件)
- 書類の記入方法に関すること (記入方法、記入時の注意点等) (2件)
- 青色申告のメリット (1件)

Q7. 日本でバレエダンサーとして活動する上でお困りのことや、今後のセミナーへのご要望、日本バレエ団連盟の事業に関するご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にご記入ください。

A7.

- ダンサーとしては生活が全く成立しないので、バレエ界全体として生活が成り立つようにしてほしい。
- 現役を終えた後の転職やサポートがない所。
- 身体のメンテナンス費がかかる点 (ケガしない為のサポートが欲しい)。
- 労災保険がないこと。ケガをした時の復帰方法や手当や助けがあると嬉しい。
- 職業として成り立たない。研究・勉強の機会がない。
- 今回の確定申告セミナーが大変わかりやすく参考になったので、今後も実施してほしい。